

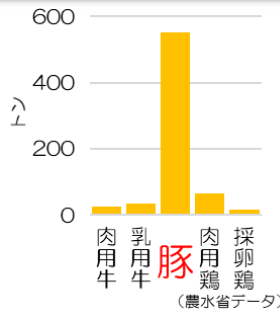
動物用抗菌剤の使用によるリスクを低減するための研究

薬剤耐性（AMR）対策推進の必要性



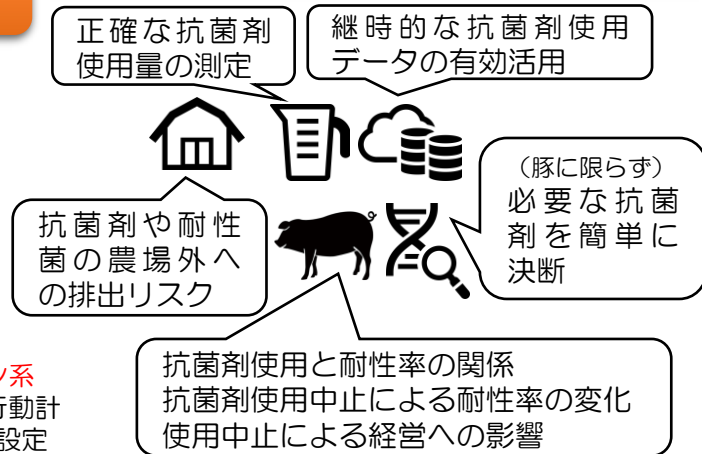
One Health アプローチ：
畜産でも**抗菌剤等の慎重使用**が求められている

家畜用抗菌剤の販売量は豚で突出



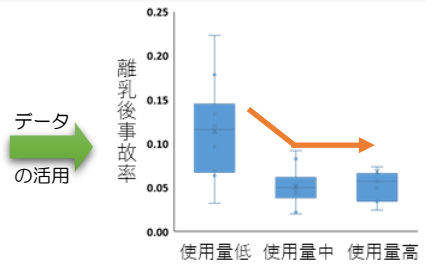
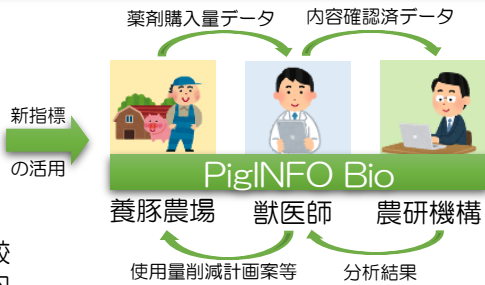
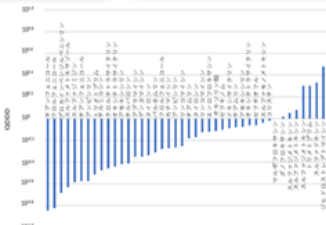
中でも**テトラサイクリン系（TC）**が多く、「AMR行動計画（2016）」で目標値設定

畜産におけるAMRの課題・ニーズ



成果①

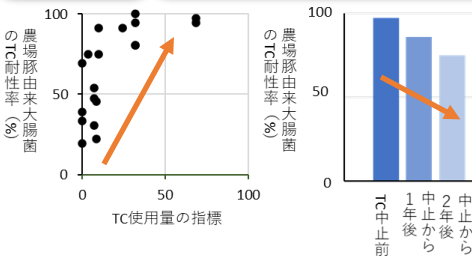
我が国での抗菌剤使用量の測定指標の確立と、それに基づく農場の薬剤使用量モニタリングシステム“PigINFO Bio”の構築と活用



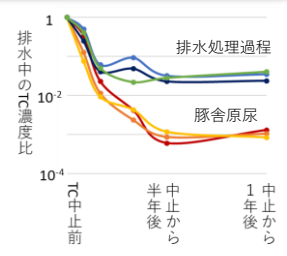
農場全体で抗菌剤の使用総量を増やし過ぎても、事故率は変わらず
⇒**適正使用の重要性**を確認

成果②

豚由来大腸菌の耐性状況と使用抗菌剤の農場内動態の評価



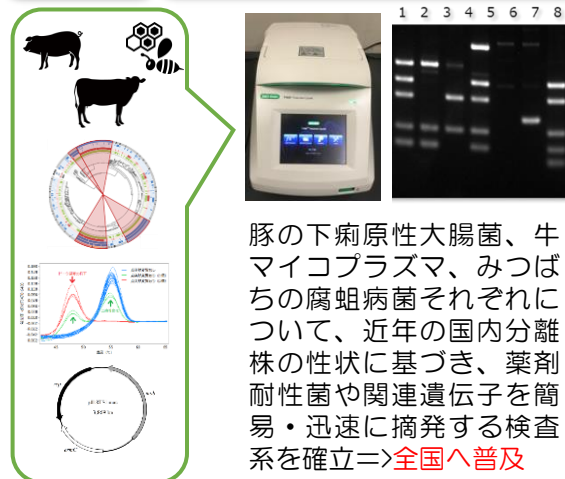
TCの農場内使用量と豚由来大腸菌の耐性率は相関し（左）、実験的には使用中止による速やかな耐性率低下を確認したが、農場では年単位を要することも（右）⇒臨床獣医師と連携し、農場ごとの**個別対策実施の重要性**を提示



豚の排せつ物処理過程における、抗菌剤の除去・分解効率に関わる重要管理点を解明
⇒**具体的な対策の技術的な検討**へ活用

成果③

薬剤耐性菌／遺伝子の検出法の開発



代表機関：国立研究開発法人
研究総括者：小林創太

農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門

問い合わせ先：TEL 029-838-7713 (<https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/research>)